

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1174501153
法人名	有限会社 いなすず
事業所名	グループホームいなすず
所在地	360-0232 埼玉県熊谷市道ヶ谷戸238 (電話) 048-567-2103

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月26日

【情報提供票より】(平成19年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤4人、非常勤4人、常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20,000円) 但し保証人がいる場合は無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月17日現在)

利用者人数	16 名	男性	7 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原口外科医院、鈴木歯科医院、たまがわクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に田畑が広がる豊かな自然に恵まれたグループホームである。広い敷地の中にある平屋建てのホームで、リビング、食堂を中央にして、左右に2ユニットが配置されている。利用者はリビングや食堂から庭に自由に出入りすることができ、野菜や花作りを楽しんだり、お茶を飲みながら談話するなど、自由に過ごしている。晴天の日は、散歩やドライブなど外出する事も多い。地域の人たちとは挨拶やことばを交わし、野菜の差し入れがあるなど親密な交流が継続されている。理念である「のんきに ようきに ほがらかに」を大切にして、「あせらず、ゆっくり話を聞く」、「利用者のペースに合わせ、笑顔を引き出すケア」を実践している。10月にホームの隣にオープンした、小規模多機能居宅介護事業所と協力、連携し、「地域でのくらしを継続するための支援」がより幅広く、充実されることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画は、介護支援専門員を中心にして、定例の会議で職員同士協議をしながら立案している。課題は、ほぼ達成されている。廊下などの共有部分の装飾を、職員が輪番制で担当し、居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。職員間の情報共有のためのファイルが整備されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが作成した自己評価を、職員全員で話し合い、ホーム全体の自己評価として作成した。自己評価は、自分たちの常日頃のケアを振り返ったり、共通確認するよい機会になったということだった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議のメンバーは、民生委員、家族代表、自治会長、利用者代表、市議会議員、地域包括支援センター職員、職員4名で構成されている。平成19年8月に第1回の会議が実施されたが、その内容は、顔合わせ程度であった。第2回目は、外部評価の結果が出た後に実施予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には、毎月ホーム長からの一言と担当者からの近況報告がされている。状態変化があったときや受診後は、その結果を、電話でそのつど報告している。平成19年8月に、第1回の運営推進会議を実施したが、顔合わせ程度であった。次回は、外部評価の結果が出たら開催の予定であるが、運営推進会議の意義や役割に対する認識がホーム側に不足している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小学校や幼稚園とは、行事に参加するなどお互いに行き来する関係を築いている。自治会にも入会している。地域住民からのボランティア活動の参加や野菜などの差し入れなどがあり、良い関係が継続されている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「のんきに ようきに 朗らかに」は、利用者がホームで生活するにあたってのホーム長の思いを表現した。グループホームの基本方針「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」は、利用者が住み慣れた地域で、のんびりゆったりと生活するための支援を理念の柱としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	馴染みやすい理念であり、「あせらず、ゆっくりと利用者の話を聞きましょう」が、職員間で共有され、日々のサービスとして実践されている。利用者の笑顔を引き出せるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や幼稚園の行事を見学したり、小学生が定期的にホームを訪問するなど、地域住民と交流している。また、地域の方々がボランティアとしてホームを訪問している。地域の方々は野菜を届けてくれたり、散歩の途中で声をかけてくれたり、野菜を手渡してくれたりと馴染みの関係が継続している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はまず職員一人ひとりが作成し、その後職員全員で話し合い、ホームとしての自己評価を完成している。また外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年8月に、第1回の会議を実施したが、顔合わせ程度であった。次回は、外部評価の結果が出たら開催の予定であるが、運営推進会議の意義や役割に対する認識がホームに欠けている。		基準上は運営推進会議は2ヶ月に1回以上実施となっているので、今後地域に開かれたサービスを目指し、議題や内容などを検討され、計画的に開催されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	手続きや必要な連絡等がある際にはお互いに行き来しており、市との連携はとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料請求通知書送付時には、ホーム長からの一言を添えている。また、担当者からは自筆で、暮らしの様子などの近況報告を入れている。状態の急変時は、そのつど報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の折など、意見や不満、苦情などがあつたときは、適宜職員会議で取り上げ内容について検討し、共通確認をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者から職員の異動や離職を問われた時は「風邪でしばらく休んでいる」というような答え方をし、不安感を抱かないような対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、定例の職員会議で、必要に応じ実施している。外部研修は、届いた情報の中からホームとして、また個人として参加する研修を取捨選択し、職員がなるべく平等に研修に参加できる機会を提供している。参加者には、旅費、日当等を支給している。また、受講後は、職員に報告書の提出を課し、他の職員に情報提供することで日々のケアに生かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームと、サービスの質の向上に向けてのネットワークづくりなどはできていない。		近隣のホームとの間で、学び合いの交流活動を推進し、サービスの向上に役立てられることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事情が許す限り、入居を希望する方の自宅への訪問やホームでの面談などで何度か対面したり、過ごしてもらい顔馴染みになるようにしながら、様子の観察を経て、利用開始を決定している。</p>		
なったり					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑仕事や調理などを利用者と職員が一緒にする中で、お互いに作業内容について教えたり、相談する関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居にあたってのアセスメントで生活歴や家族などから聴取したことを活用し、日々の言動、行動、表情などから、利用者の思いや意向を推し測ったり、確認するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時や面会時に家族から聴取したことや、日々の介護記録をもとにして、各担当者が作成した介護計画の原案をカンファレンスで検討した後、介護支援専門員である計画作成担当者が介護計画として完成している。医療面などの支援が必要なときは、かかりつけ医の指示を仰いでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは、毎月のスタッフ会議で、担当者が用意した資料に添って毎日2,3名ずつモニタリングし、新しい計画を作成している。状態変化があったときは、随時計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	通院受診介助や外泊など、本人 と家族の状況や希望に応じた 支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	馴染みのかかりつけ医への受 診を支援している。受診結果 については、家族に電話で報 告している。また、職員には 連絡ノートで伝え、介護記録 に記載している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返 し話し合い、全員で方針を共 有している	過去2ケース、家族の要望によ り、終末期の介護を行ったが 、現在、ホームとして重度化 や終末期に向けて明確な方針 はない。今後も要望があれば 、ケースによっては受け入れ ていく姿勢はある。		家族・医療機関を交えて話し 合いを行い、ホームとして終 末期に対する対応方針を定め ていることを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	居室を訪ねる時は、ノックを して声をかけ応答があったら ドアを開けるなど、利用者 のプライバシーを大切にす ている。介護記録を記入す るための時間が確保できず 、利用者を見守りながら記 録している。		見守りながら記録していると 、利用者が不審感もち、記 録について尋ねてくること があるので、業務多忙では あるが、記録のための時間 捻出を今後も検討されるこ とを望む。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切に、その日 をどのように過ごしたいか 、希望にそって支援してい る	利用者のペースに合わせ、ゆ ったりとのんびり過ごせる よう支援していることが、 利用者の表情や職員の動き から伺えた。リビングで歌 を歌ったり、折り紙を折る 、居室で休む人など利用者 が思い思いのペースで過ご せることを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ、準備、片付けなどを利用者と職員が一緒に行っている。食前食後の挨拶を唱和したりすることなど、楽しみながらの食事を支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる時間帯は各利用者の希望やタイミングに合わせているが、入浴の曜日は決まっている。入浴拒否をされる方には、個々の気分やタイミングを見ながら随時対応し、週3回は入浴してもらうように支援している。		入浴できる曜日を決めず、利用者の希望した日に入浴できるよう、勤務ローテーションなどの工夫をされることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの農業経験を活かし、菜園での野菜作り、庭での花作りなどを楽しむ利用者が多い。また、自主的に除草作業をする人もおられる。女性の方々には、調理の手伝いや洗濯物たたみなどの場面作りで支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の多くは戸外に出ることを好み、晴れた日は散歩や畑、庭で過ごすことが多い。また、長距離歩行が困難な方は、車での外出を喜ぶため、ドライブに出かけるなどの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビング、食堂から庭や菜園への出入りを自由にできるようになっている。玄関はオートロック式にしてあり、職員と出入りするようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災想定訓練を、利用者と一緒に年2回実施しているが、地域との協力体制は不十分である。食料の備蓄は特にしていないが、大型冷蔵庫があり常時相当量の食料品が入っている。		災害発生時には、地域の協力が必要不可欠なので、地域の理解や協力してもらうための体制作りの具体的な対策を早急に立てられることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材発注先から届く栄養計算がされた献立表に基づき、調理されている。また、週のうち数食は利用者のリクエストを踏まえた献立も取り入れている。利用者の状態によっては粥食やおにぎりなどを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと装飾や観葉植物を変えるなど、居心地の良い共用スペースの空間作りに取り組んでいる。浴室は、行き届いた清掃で清潔を保持していた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問調査時、利用者の居室を数室見せていただいたが、ベッドの他は馴染みの物や装飾により、利用者の個性が伺える居室作りがなされていた。本人の要望があったとき、家族が、利用者が今まで使っていた家具をホームに持ち込んだというケースもあった。		